

令和7年6月18日

沖縄県議会議長

中 川 京 貴 殿

派 遣 議 員

団 長

山 内 末 子

座 波 一

仲 里 全 孝

糸 数 昌 洋

比 嘉 瑞 己

「西田昌司参議院議員による沖縄戦の実相をゆがめ、否定する発言に
対する抗議決議」の要請議員団報告書

上記のことについて、別紙のとおり報告します。

別紙

「西田昌司参議院議員による沖縄戦の実相をゆがめ、否定する発言に対する抗議決議」の要請議員団報告書

1 派遣議員

団長	山内末子
	座波一
	仲里全孝
	糸数昌洋
	比嘉瑞己

2 派遣目的

令和7年第3回議会（臨時会）の5月16日の会議において議決された抗議決議の趣旨を関係要路に要請するため。

3 派遣期間

令和7年5月29日（木）（1日）

4 要請日程

別紙のとおり

5 要請概要

団長が抗議決議の趣旨を説明した後、西田昌司参議院議員に対し、史実に基づかない自身の発言の認識が、ひめゆり学徒や沖縄戦体験者の証言をゆがめ、否定するものであったことを認めた上で謝罪し、発言を撤回すること、自由民主党に対し、ひめゆり学徒や沖縄戦体験者の証言をゆがめ、否定した西田氏への厳格な処分を行うと同時に、党としての沖縄戦への認識を示すこと、及び党所属議員が歴史の事実や戦争被害に対して無理解な発言を繰り返すことの重大性を直視し、再発防止のため、党内教育体制の再構築を速やかに実施することについて、強く要請した。

6 要請における対応者の主な発言及び質疑応答の概要（要請順）

（１） 自由民主党 幹事長 森 山 裕

西田参議院議員の不正確な認識に基づく発言によって、沖縄県の皆様のお気持ちを害してしまったことに、改めて、党を代表しておわび申し上げます。

先の大戦において、沖縄では住民を巻き込んだ大変過酷な地上戦が行われ、20万人を超える貴い命が奪われたと認識しており、大変悲惨なことであったと思っている。私の政治の師である初代沖縄開発庁長官を務めた山中貞則先生は、沖縄のことに心を砕いてこられた。沖縄のことはどんなことをして差し上げてもやり過ぎることはないという言葉をよく伺っていた。

私も大隅半島の出身で、当初、アメリカ軍が志布志湾に上陸する作戦であったと聞いている。ゆえに、我々大隅の人たちは、大変緊張感を持って、終戦間際は構えていたのだろうと思う。ゆえに、それが沖縄になり、沖縄に大変な犠牲を強いて、我々の命がつながっているということはよく理解している。山中先生が言われたとおり、沖縄への思い、沖縄のためにどんなことをして差し上げてもやり過ぎることはないという気持ちが、特に我々鹿児島の大隅の人たちにとっては強いのだろうと思っているし、その気持ちが国民の気持ちでなければならないのだろうと思っている。

終戦から80年を迎える中で、沖縄が経験した苦難の歴史を心に刻んで、県民の皆さんのお気持ちにしっかり寄り添いながら、引き続き、自民党として沖縄の問題に取り組んでまいりたいと考えているので、今後ともよろしくお願いを申し上げたいと思う。

また、いろいろな御意見もお寄せいただければ、大変ありがたいというふうに思っている。今日は本当にわざわざ上京して、党本部をお訪ねいただき感謝を申し上げます。

（その他の発言）

ア 要請議員団

○ 公明党支持者からも大変厳しい声が届いている。

戦後80年という節目の年に、このような発言があったことに対して沖縄県民は怒ったわけだが、今は怒りを通り越して悲しみの気持ちが広まっていると感じている。

沖縄戦の実相というものをしっかり伝えていかねばならないという思いが県民の間に広がっている。多くの本土の方々も含めて、沖縄戦に対する認識を改めていただき、絶対に戦争を起こさないという決意、思いが広がるように強く訴えていきたい。

- 当該発言の後、西田議員は2度の記者会見において、ひめゆりの塔に触れた部分については謝罪を行っているが、私たちが問題としている歴史教育に関する認識については、まだ撤回も謝罪もしていない。自民党として、西田議員に対して厳格な処分を求めると同時に、沖縄戦への認識も示していただきたいと要請しているので、ぜひとも受け止め検討していただきたい。
- 西田発言については、我々自民党支持者から非常に強い抗議を受けている。沖縄県議会の抗議について、重く受け止めていただき、今後、このような間違いが起こらぬように沖縄県民の声に耳を傾けて、これからの沖縄、日本の政治に生かしていただきたい。
- 我々沖縄県は基地を抱える市町村が多く、沖縄戦における沖縄県民の痛みをもう少し分かち合ってほしいという気持ちから、今回の西田議員の発言で怒りが頂点に達しているところである。残念ながら、今日は本人にお会いすることはできないが、ぜひ、御指導をお願いしたい。
- 今回の抗議決議は、維新の会の皆さんがもっと強い処分の在り方を記すべきであるとのことで、全会一致になっていない。そういう意味で、私たち沖縄県民の思い、怒りがどれほどのものか、戦後80年の県民の思いが詰まった抗議決議書であるので、それを酌み取っていただき私たち沖縄県民に寄り添っていただきたい。二度と戦争を起こさない、県民に寄り添う政治であってほしいということが県民の願いである。西田議員に対する処分も求めているので、よろしくお願いしたい。

イ 森山幹事長

- 私は昭和20年4月8日の生まれで、鹿児島県の鴨池というところに住んでいた。当時の鹿児島県の副知事が、4月8日というのはその地域の空襲が一番激しかった日だと言われた。鹿児島もそういう状況であったので、沖縄の状

況は本当にひどかったのだらうと思う。いろいろ悲しい歴史があるが、そこを我々はしっかりと受け止めて、平和な世界をつくることが大事なことだと思っている。自民党として、間違いのない政治ができるように努力してまいりたいと思っている。



自由民主党 総裁応接室

森山 裕 幹事長

(2) 西田昌司参議院議員 公設秘書 安 藤 高 士

西田昌司参議院議員不在のため、公設秘書安藤高士氏へ手交した。

今回の抗議決議文については、西田にきちんと渡して説明しておく。

私からの発言は特にはないが、真摯に受け止めると思う。

現在国会の会期中で本会議や委員会对応等の公務、公務外の地元京都での会合等により時間が取れず、私のほうで対応するという事になった。

(その他の発言)

- 今回の沖縄における発言というのは看過できない発言である。これは不適切とか失言というレベルを超えて、県民からは怒りと悲しみの声が広がっている。

これは、体験者一人一人が語っている戦争体験が一体何なのかということの本質が見えていない。自虐史観ということではなく、体験したことは事実

であるので、その事実から見えてくるものは、もう二度と戦争を起こしてはいけない、戦争というものがどれだけ悲惨かということである。

ぜひとも沖縄戦全体についてしっかりと認識いただいて、沖縄県民が求めているのは、戦争は二度と起こしてはいけないということの強い発信であるということをしかりと捉えてほしい。

西田議員が思う以上に、県民にとっては大変重い発言だったということ、今一度しっかりと受け止めていただきたいと思っている。

- 西田議員による謝罪がない限り、この問題は終わっていないというのが、県民の皆さんの思いだと思うので、ぜひ、受け止めていただきたいと思う。

沖縄戦については、体験者の証言や戦争研究の中で積み上げてきた事実であると思っている。その点もししっかりと認識していただき、沖縄の教育が間違っていた、歴史が書き換えられたという部分について、きちんと謝罪と撤回を求めたいと思う。

- 西田氏の発言により、自民党支持者の方々から連日厳しい声を受けている。西田議員の発言が、このような事態を招いているということを十分理解し、認識していただいて、ぜひ、沖縄へ足を運んでいただき沖縄の実相に向き合ってもらいたいということを伝えていただきたい。

- 今回の西田議員の発言については、やはりちょっと温度差があるのかなと感じた。

今日、西田議員と考え方の相違などいろいろと意見交換できと思っていたが、面会できず残念である。本日面会できない理由をお聞かせ願いたい。我々与野党一緒になって沖縄県の思いを西田氏へお渡ししている。ぜひ、正式に回答していただきたい。

- いろいろな事情があるにせよ、5分、10分でも構わないのだが、面会できないということは、正直言って誠意が感じられない。石破総理からは玉城デニー知事に対して、謝罪と撤回という言葉をいただいた。

- 6月23日に慰霊の日があるが、ぜひそこに足を運んでいただき、沖縄県民に、誠意ある言葉での謝罪、撤回あれば、本当の意味での謝罪になるのではないかと思う。御本人には、しっかりと沖縄県議会代表の5人の思いをお伝え願いたい。



西田参议院議員事務所応接室 西田昌司参议院議員
（参议院議員会館1110号室） 公設秘書 安藤 高士 氏

以 上

別紙

要 請 日 程

月 日	曜日	時間	要 請 先 等	場 所
令和 7 年 5 月 29 日	木	14:00 ～ 14:15	自由民主党 幹事長 森山 裕	自由民主党 本部 総裁応接室
		14:45 ～ 15:00	西田昌司 参議院議員 公設秘書 安藤 高士	国会事務所 西田参議院 議員事務所 応接室